



◎本會理事會の開催

九月九日午後五時三十分より、丸の内日本俱樂部に於て理事會を開いた。水野會長、内田副會長、山田、中川、松木、長岡、比田、木原、村井、池田、八田、島各理事、内藤監事、松本以下の各幹事出席した。水野會長より開會を宣し、北海道に於て講演會開催につき、田中幹事より詳細説明し、九月十七日より九月二十九日までの講演會開催地浦河町、根室町、稚内町、岩見澤町、留萌町、俱知安町、江差町の日程を示し福田大將の出演内諾を得たる顛末を述べて同意を求めたが結局今回の北海道講演開催地は福田大將を煩すほどの町にあらざることゝを理由して否決された。

第三回道路職員講習會の狀況に關し田中幹事説明し去る八月十日より豫定通り十日間、社會局にて開催、修了者は北海道、朝鮮、臺灣より各府縣推薦の事務官、技術官百四十名にして講習は六十時間、講師も聽講者も猛威を逞ふる、炎熱によく聽講し、大過なく終りを告げたことを述べ、十五日には地下鐵道會社の厚意に依り、淺草、上野間の地下鐵道の工事を見學、それより隅田川の架橋工事の實況を見學、十六日には土木試験所を見て、二十一日には新宿御苑の拜觀を許され、東京放送局、日本ソリヂェチット株式會社等を見學して、一同得る所、多大であつたことより、本講習會のために便宜を與へられた社會局長官及地下鐵道會社の厚意に對する感謝を報告せり。

八月十六日恙なく歸朝せられた、水野會長の歓迎宴を催し内田副會長挨拶の辭を述べ、留守中は役員の奮闘に依りて、凡ての豫定事業は、大過なく進捗したことを報告し、水野會長の大戦後の變化したる、歐米の旅行見聞談等あつて午後八時散會した。

◎北海道拓殖計畫に關する陳情

北海道拓殖調査會民間委員會は六月三十日相謀つて拓殖計畫の根本案に對し熟議を遂げ、聲明書を作製して中川長官に陳情し尙内務大藏を始め其の他諸大臣に對しても陳情することを滿場一致決議した。

即ち北海道第二拓殖計畫の財源を公債に求め事業の進捗を計らんとするものであつて、本道の歳入超過額を向ふ二十ヶ年十二億圓と豫定し、此の範圍内に於て募債初期數年間の拓殖費財源として繰上げ使用せんとするものである。

拓殖計畫は勿論北海道の産業交通等總ての方面に涉るものなるも道路の開鑿修築等は其の主眼とさるゝ一つであり、本問題に關しては委員の熱心なるは勿論國家としても影響する所頗る大なることは言を俟たない、政府も此の決議の總てを承認することは方針として危まれる所なるも何れ日を追ふて實現さるゝは明かな事實にして、鐵道道路等總ての事業進捗を見るは近き將來であらう。

◎我國道路鋪裝の面積

我國道路の鋪裝が世上の問題と爲つたのは随分古いことであるが、言ふに易く實行困難で成績が餘り擧がらない、内務省土木試験所で十五年三月迄に完成した全國鋪裝道路の面積調査する所に依ると、次のやうなものである。

工種	面積	百分率
瀝青鋪裝	三二〇,三七三	三九,五
瀝青マカダム	一九,八〇六	二,五
瀝青塗裝	九七,二一二	一二,四
鋪石	四四,一四六	五,六
小鋪石	六,七八一	〇,九
煉瓦	八,六四六	一,一
木塊	一六五,二一一	二一,〇
碎石道	二〇,九〇二	二,六
步道版	一〇八,五二八	一三,七
コンクリート及ソリヂイチツト	五,六九一	〇,七

合計 七八七、三九六 一〇〇、〇

全國の鋪裝面積七十八萬七千坪であつて、米國一九二五年の一ヶ年の鋪裝面積一千〇五十三萬八千坪に對照するときは僅かに七、五パーセントにすぎない、そのうち最も廣く施行してゐるのは東京大阪の兩都市であつて兩都市の合計面積五二九、八九九坪は全國の鋪裝面積の六七パーセントに達してゐる、併し東京市の全路面の約一〇パーセント、大阪市に於ても新大阪市の全路面の約一〇パーセントにすぎない、之を米國フィラデルフィア九〇パーセントロザンゼルス九〇パーセント紐育八五パーセントと比較するに前途甚だ遠い感がある。

東京大阪兩都市の全鋪裝の工種別を示せば、次の通りである。

東京市鋪裝種別

工種	面積	百分率
鋪木道	五八、二六一 ^坪	二二、一
鋪石道	一一、二二三	四、六
瀝青鋪道	一〇二、九四三	三九、一
瀝青マカダム	八、六〇〇	三、二
小鋪石道	六、七八一	二、五
鐵筋コンクリート道	一、六五〇	〇、六
歩道版	七二、二五九	二七、五
其他	一、二三五	〇、四
合計	二六三、九五六	一〇〇、〇
大阪市鋪裝種別		
工種	面積	百分率
木塊	九九、七三五 ^坪	三七、五
煉瓦	六、九二八	二、六
コンクリート板	二九、六六八	一一、二
板石	二七、八六三	一〇、五
シート	三四、二九三	一二、九
アスファルト	一一、四三〇	四、七
コンクリート	四、二五〇	一、六
アスファルト	一、六〇九	〇、六
タービアマカダム		

セメント
コンクリート
コールタール
アストン、ソリテチツト
ツクアスファルト
合計

五、四一七
三〇、四六六
一三、二八二
一、二六五、九四三
一〇〇、〇〇〇

◎土木費總額と其の負擔者の調査

我國及公共團體の歲出中土木費が随分多額に達してゐることは、常に人の口にする所であるが、その總額は餘り知り得ない。

大正十四年度地方土木費負擔者別調査

區	別	河川費	港灣費	道路橋梁費	砂防費	水道費	下水道費	用悪水費	其他諸費	合計
廳府縣	國庫	五、四四一、〇三三	三、三二九、五五五	三、三二一、〇五六	四、一五七、七八六	八八、三三二	三、四三三、九一六	二、七七一、七五八	二、四七〇、〇〇〇	二、四七〇、〇〇〇
	地方	三、三二九、五五五	三、三二九、五五五	三、三二一、〇五六	四、一五七、七八六	八八、三三二	三、四三三、九一六	二、七七一、七五八	二、四七〇、〇〇〇	二、四七〇、〇〇〇
事 業	補助	三、〇六、七六六	六、〇九一、六六六	六、〇九一、六六六	七、七三三、六八八	一、三三三、三三三	四、一四一、四一四	七、二二五、九九九	六、七四二、二二二	六、七四二、二二二
	補助	三、〇六、七六六	六、〇九一、六六六	六、〇九一、六六六	七、七三三、六八八	一、三三三、三三三	四、一四一、四一四	七、二二五、九九九	六、七四二、二二二	六、七四二、二二二
市 事 業	補助	一、一三四、五九	二、五二一、五六	二、五二一、五六	二、六〇六、五九九	一、〇〇〇、〇〇〇	一、一四六、八七九	二、三三三、三三三	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
	補助	一、一三四、五九	二、五二一、五六	二、五二一、五六	二、六〇六、五九九	一、〇〇〇、〇〇〇	一、一四六、八七九	二、三三三、三三三	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
町村事業	補助	一、七七一、八九	六、三二九、五五	六、三二九、五五	一、五〇九、四四	四、四四四、四四四	九、四四四、四四四	三、三三三、三三三	二、二二二、二二二	二、二二二、二二二
	補助	一、七七一、八九	六、三二九、五五	六、三二九、五五	一、五〇九、四四	四、四四四、四四四	九、四四四、四四四	三、三三三、三三三	二、二二二、二二二	二、二二二、二二二
總計		五、四四一、〇三三	三、三二九、五五五	三、三二一、〇五六	四、一五七、七八六	八八、三三二	三、四三三、九一六	二、七七一、七五八	二、四七〇、〇〇〇	二、四七〇、〇〇〇

られてゐない、殊に之に關する從來の統計に於ては府縣や市町村別に土木費總額を示してゐるが、夫れはたゞ形式上の支出額を示すのであつて眞にその團體が負擔力を觀る參考とはならない、例へば廳府縣の土木費が一億四千百萬圓あると言つても、その内には二千四百萬圓の國庫補助金があると云つた具合で眞の負擔額を示さない、今回内務省土木局に於てその眞の負擔額を調べたが其の内譯は左表の通りである。